

# 2023年度 認定こども園進徳幼稚園自己評価結果報告書

人間性を豊かに育て、幼児期に必要な様々な経験を通して、心身ともに健全でたくましい子どもが育つよう3つの教育目標（「生きる力」の育成）を掲げている。

1. げんきであかるい子（体）
2. こころのやさしい子（徳）
3. よく考え、工夫し、表現する子（知）

## 1. 重点的に取り組んだ目標・評価

コロナ禍の4年間で縮小してきた活動や行事を、本年度は新型コロナウイルス感染症の5類移行をうけ、少しずつ再開したり拡大したりすることが出来た。再開に向けては保育者間で話し合いを重ね、子どもを主体とした行事の在り方や保育を行うことを目指し折に触れて検討を重ねてきたこと、そしてその結果、子どもや保護者に有益な保育を提供できたことは評価できる。

## 2. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A…達成できた B…概ね達成できた C…概ね達成できたが課題が残る D…努力が必要

評価項目	取り組み状況	評価
保育の振り返りを継続していく中で、出てきた課題などを、学年や園全体ですぐに共有できる記録の取り方、活かし方、更にはそれを次年度に活かしていく。	主任会議や学年会議などで取り上げられた課題や意見の記録を、職員すべてが閲覧できるツールに残すことでタイムリーに園内の課題を共有出来ていた。また、残された記録はいつでも閲覧できるので今後の計画や実践に活かすことも出来る。	A
これまでの行事を見直し、子どもが主体的に取り組める行事の在り方を保育者間で意見を出し合いながら作り上げていく。また、園が目指す行事の目的を保護者にもわかりやすく伝え、保護者と園が連携して子どもを主体とした行事を実施する。	行事を開催するにあたり、その行事の目的や子どもたちが主体的に参加するにはどうすればよいかを保育者と子ども達と一緒に考えて実践に繋げることが出来た。また、子ども達が主体的に活動する様子をブログやお便りを通して発信してきたが、一部の保護者には浸透しておらず伝え方に課題が残った。	B
子どもたちの食への関心を高めると共に、年齢に応じた食具の使い方の指導を通して、食育教育の在り方を研究していく。また、その過程で得た成果や知識を保護者にも伝え、園と保護者が連携して食育を進めていく。	全学年共通の研究課題として取り上げたことで、職員が相互に他学年の保育者と連携して発達段階を踏まえた食育指導の研究を行うことが出来た。また、食育だよりや進級に向けたおたよりなどを通して家庭での食育に活かされる情報の提供もできた。次年度も引き続き研究を継続する。	A

## 3. 自己評価結果と分析

### ・評価方法

各職員が各自自己評価を行い、全体の集計を出す（評価項目は最終ページに添付あり）

### ・分析

「本園の取り組むべき課題」の項目の評価がやや低かった。特に前期評価時には、まだまだ課題の達成には程遠く、保育者ひとり一人が自己へ厳しい評価をしたと思われる。指導教諭との面談を通して後期評価に向けて課題達成への手立てがはっきりしたことで後期には全項目の評価が上がったと思われる。このことは、保育者一人ひとりが課題を意識し、改善に向けて努力した結果と評価できる。



## 5. 今後取り組むべき課題

ICT 化を利用した業務改善による保育の効率化と保育の質の向上を目指す。	導入しているシステムやツールを見直し、業務に必要な機能を精査して更に効率よく利用できるようにする。そのことにより子ども達と向き合う時間が増えることで保育の充実を図る。また、保育者の労働環境を整えることで保育の質の向上を目指す。
保護者の悩みに寄り添いながら共に子どもたちの成長を育む。	子育て世代が抱える課題を知り、園として取り組めることを模索していく。また多種多様な保育ニーズを必要とする園児に対し、ひとり一人が安全・安心・安定した生活を送る為には何が必要かを探り、保護者と連携共有を図る。
引き続き昨年度取り組んだ食育について研究を深める。	昨年度の研究により見えてきた課題について引き続き分かりやすい情報発信を続け、園だけでなく保護者と共に食育教育に取り組めるよう工夫をする。また、新たな課題も探り、より深く研究を進める。

## 6. 子ども園評価評議員会 (R5.12.2 及び R6.3.20) による意見

- ・ 作品展について一枚一枚の絵画作品、一つ一つの造形作品が丁寧に、鑑賞しやすく楽しく、工夫して掲示されており、先生たちが子どもの作品を大切に扱っているという姿勢が伝わってきた。教室内も清潔で明るく、落ち着いた雰囲気がありよかった。
- ・ 運動会体育館使用について、多くの保護者アンケートの結果にあるように今後も体育館使用で行うことが良いと思われる。何より天候に左右されない、駐車場が確保できることが利点。
- ・ お泊り保育・花火大会について、一番大切なことは子どもの命を守ること。安全安心が担保されないような活動は行うべきではない。卒園生が楽しかったから、保護者の方がとても意義があったからという一部の意見で判断するのではなく、広く多様な意見を聞く中で総合的に判断することが大切。
- ・ 朝、園バスが発進する際、周りの安全確保に気を付けてほしい。という保護者の意見があり、その意見に対し、ドライバーズ会でも検討する中で、添乗する保育者が周りの安全を確認してからバスに乗り込むという取り組みを始めたことに対し、指摘された課題にすぐに対応したことがよかったとの評価をいただいた。

## 7. 財務状況

会計処理についても適切に処理されている旨の報告を公認会計士より受けている。(R6.4.8)

## 2023年度 自己評価チェックリスト

		十分 できて いる	できて いる	努力が 必要
<b>1 保育環境</b>				
1	楽しい雰囲気の中で一人ひとりが安心して遊びこめる環境づくりを心がけている。			
2	季節の変化に応じた環境構成を行っている。			
3	子どもの動線、視線に配慮して遊具や用具を配置している。			
4	発達に合ったおもちゃや、遊具を用意している。			
5	保育室の清潔や換気、採光、温度、湿度などに気を付けている。			
6	活動に必要な遊具や用具、素材などを質、数量などを配慮して用意している。			
7	翌日の保育がスムーズに始められるよう、前日までに全ての設定を整えている。			
8	不審者の侵入や登降園時の安全に十分配慮している。			
チェック 合計数				

### 2 子どもとの関わり

9	一人ひとりの発達を理解してその子の持つ個性や可能性を大切に育てるように心がけている。			
10	一人ひとりのありのままの姿を受け入れるようにしている。			
11	朝の登園時は特に視診を大切に子ども体調が悪くないかを確かめている。			
12	子どもが自ら考えたり、工夫したり出来るような見守り方をしている。			
13	年齢に応じた分かりやすく、聞き取りやすい語りかけをしている。			
14	適切な声の大きさで接している。			
15	子どもの話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるようにしている。			
16	子ども同士のトラブルに対し適切な対応をすると共に、友達の良さや大切さに気付くような対応をしている。			
17	子どものことについて、常に保育者同士で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。			
18	他のクラスや異年齢の子どもたちと進んで関わりを持つことを大切にしている。			
チェック 合計数				

### 3 保護者との関わり

19	全ての保護者に対して、親しみを込めたあいさつや会話をするよう心がけている。			
20	正しい日本語、丁寧な言葉や敬語を用いている。			
21	保護者が要望や相談などを話しやすいように誠実に対応している。			
22	保護者からの意見やクレームには安易に対応せず、園長や主任に報告、相談して対処方法を考えている。			
23	体調不良やケガなどの緊急連絡は相手方の状況に配慮した上で、迅速に、かつ分かりやすく対応するよう心がけている。			
24	送迎時に直接話をしたり、電話や連絡帳などで、日常の子どもの様子を伝達することを大切にしている。			
25	必要ならば個人面談の機会を設け、子どもの姿や育ちの過程を伝え合い、保育への理解を得るよう努めている。			
チェック 合計数				

### 4 保育者としての資質、在り方

26	子どものささやかな成長が理解出来てそれを喜ぶことが出来る。			
27	子どもと一緒に日々の生活を創りだすことを楽しんでいる。			
28	子どもや保護者との対応には公平さを欠かないようにしている。			
29	自分の保育の評価・反省を怠らず、次の保育と計画に活かせるように努力している。			
30	保育雑誌や専門書などを読んだりして、保育の情報や知識を集めている。			

31	園や子どものことだけでなく、自然や社会の出来事にも興味がある。			
32	園長や主任、同僚を尊重すると共に、職員全員でひとつのチームであることを意識している。			
33	子どものこと、クラスのことなどで必要なことは園長、主任に連絡・報告・相談している。			
34	職務上知り得た個人情報などの秘密を守っている。			
35	締切のある仕事や提出物は締め切り日をきちんと守っている。			
36	担当する仕事の計画・実行・反省を最後まで責任をもって行っている。			
37	園の消耗品や教材は節約して使い、後で使う人が使いやすいように片付けている。			
38	自らの健康や身だしなみ(服装・髪形)に気を配り、清潔感があるように心がけている。			
39	研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加している。			
40	研修などで得た知識を日々の保育に活かしたり、園全体の向上に役立てられるよう伝達している。			
チェック 合計数				

## 5 本園の取り組むべき課題（2023年度課題）

41	<b>【日々の保育の記録の取り方、活かし方を工夫し活用につなげる】</b> 引き続き「日々の保育の振り返りを継続していく中で出てきた課題などを、学年や園全体ですぐに共有できる記録の取り方、活かし方、更にはそれを次年度に活かしていくことを目指す。			
42	<b>【保護者と園が連携し、子どもを主体とした行事を実施する】</b> これまでの行事を見直し、子どもが主体的に取り組める行事の在り方を保育者間で意見を出し合いながら作り上げていく。また、園が目指す行事の目的を保護者にもわかりやすく伝えていく。			
43	<b>【今年度の研究課題である食育や食具の使い方について研究を深め保護者と共有する】</b> 子どもたちの食への関心を高めると共に、年齢に応じた食具の使い方の指導を通して、食育教育の在り方を研究していく。また、その過程で得た知識を保護者にも伝え、園と保護者と連携して育てていく。			
44	<b>【保育教諭としての資質向上に努める（個人目標と具体的計画）】</b> 自らの保育を振り返り、適切な個人目標を立て具体的計画のもと、よりよい保育の達成に向けての取り組みが出来ている。			
チェック 合計数				